

第2回宮城県中学生水の作文コンクール
優 秀 作 品 集

『水』について考える

宮 城 県

はじめに

水は命の源です。水は、私たち人間だけでなく地球上のあらゆる生物にとって欠くことのできない貴重な資源です。また、使えば無くなってしまう石油などの化石燃料とは異なり、自然の恵みによって昔から変わらずに地球上を循環している資源でもあります。

このような循環を通じて、水は私たちの日常生活や社会活動、あるいは自然環境や生態系を支える貴重な役割を果たしています。加えて、最近では、水源や流域における水質の保全、水辺環境の保全と創出、おいしい水への志向など水資源に対するニーズも多様化しています。

我が国は降雨が多い一方、急峻で平地が少ない地形であるため、一人ひとりが利用できる水の量は決して豊富とはいえません。近年では、全国各地で渇水が発生し、私たちの社会生活に大きな影響を与えています。

このような状況の中、水循環基本法では、8月1日を「水の日」と定めており、この日を初日とする1週間は、「水の週間」として、国や県が、水の貴重さや水資源開発の重要性などについての理解を深めるための様々な啓発活動を行っています。

宮城県では、こうした啓発活動の一環として、「宮城県中学生水の作文コンクール」を実施しております。水に関する日常生活での体験や、学んだことに基づいて作文を書いていただき、次代を担う中学生の皆さんが「水」について考えるきっかけを創出することを目的としたものです。

今年度実施した「第2回宮城県中学生水の作文コンクール」では101編の作品応募がありました。本作品集には、審査会で選出した優秀作品をまとめておりますので、中学生の皆さんが「水」について考え、思いを綴った作文を、多くの方にお読みいただければ幸いです。

最後に、本作文コンクールに応募いただいた中学生の皆さん、御家族及び取りまとめを担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

令和8年2月

宮城県環境生活部環境対策課

も く じ

第2回宮城県中学生水の作文コンクール優秀作品

【1年生部門】

●優 秀 賞（2編）

- ・流してしまった水が教えてくれたこと 仙台市立南吉成中学校 岩田 零 …………… 1
- ・蛇口の向こうには 宮城県仙台二華中学校 大竹 祐愛 …………… 2

●入 選（2編）

- ・水と共に生きる 宮城県仙台二華中学校 金谷 章汰 …………… 3
- ・川が教えてくれたこと 宮城教育大学附属中学校 野田 柚羽 …………… 4

●佳 作（1編）

- ・「水の未来」 登米市立豊里中学校 阿部 眞花 …………… 5

【2年生部門】

●優 秀 賞（1編）

- ・「水守の郷」の一員として 七ヶ宿町立七ヶ宿中学校 日野 玲隼 …………… 6

●佳 作（3編）

- ・きれいな水を守るために 宮城県仙台二華中学校 中川 修一 …………… 7
- ・水のカリスマ性 宮城県仙台二華中学校 太田 彩愛 …………… 8
- ・透明な存在 角田市立北角田中学校 目黒 莉桜 …………… 9

【3年生部門】

●優 秀 賞（1編）

- ・命をつなぐ水 仙台市立南小泉中学校 加藤ひかり …………… 10

●入 選（1編）

- ・水について考える 岩沼市立岩沼中学校 合田祥有未 …………… 11

●佳 作（1編）

- ・水の危機 石巻市立河南西中学校 菅原 伶 …………… 12
- ・しみわたる水 岩沼市立岩沼中学校 加藤 悠 …………… 13

●第2回宮城県中学生水の作文コンクール募集概要 …………… 14

●「宮城県中学生水の作文コンクール」におけるこれまでの入賞者 …………… 16

●「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者 …………… 17

【優秀賞】

流してしまった水が教えてくれたこと

仙台市立南吉成中学校

一年 岩田 零

夏休み前、歴史の授業で古代文明について習いました。エジプト文明をはじめとしたこれら四つの文明は、すべて大河のほとり、豊かな水のあるところに発生しました。定期的なナイル川の氾濫がエジプトに豊かな土をもたらし、多くの農作物の収穫を可能にしました。インダス文明では進んだ灌がいシステムが食料生産を支えていたそうです。このように、古代文明において水は人々の命と生活を支える、とても大切なものでした。

お盆休みに久しぶりに祖母の家に遊びに行きました。みんなで楽しく過ごした翌朝、「家の外の水道が開きっぱなしで、かなりの量の水が垂れ流しになっていた。」と、自宅にいる父から電話がありました。ぼくは真っ青になりました。一週間ほど前、大雨の日に野球部で練習をして、泥だらけになったユニフォームを家の外の水道で洗った記憶があったからです。ぼくは水道の栓を閉めるのをすっかり忘れて、洗い終わったユニフォームを持って家に入ってしまったのです。そしてそのまま一週間が経っていました。

一番はじめに頭に浮かんだのは、「これ、水道代いくらになるんだろう。きつとめちゃくちゃ高いよなあ。払えないような金額だったらどうしよう。」でした。これは蛇口を閉め忘れたばかりの責任だから、自分のスマホを売って払おうかなとも考えました。大切な資源である水と家族のお金を無駄遣いしてしまったことを、深く反省しました。

しばらくして、水道代はそこまで心配しなくても大丈夫そうだと分かりました。父が電話した水道局のコールセンターの人が、だいたいの水道料金の計算方法を教えてくれたからです。ぼくは少し安心したと同時に、

「水道料金って何のために払っているんだろう。」という疑問がわいてきました。一番大きい理由は、上下水道設備の維持管理費をまかなうためでしょう。もしかしたら、ぼくたちが払った水道代で古くなった水道管やダムも直しているのかもしれませんが。でも、水道料金を払う意味は本当にそれだけでしょうか。

今回の大失敗を通して、ぼくは水道料金がかかる理由には、水を大切に使うってほしいというメッセージも込められているのではないかと考えるようになりました。今回ぼくが一番反省したのは、水を「お金で買える商品」としてしか見ていなかったことです。今年、東日本は全域的に水不足で、多くの住む宮城県でもダムの貯水量が大幅に減少しています。農業用水も不足し、米の成長に影響が出るかもしれないというニュースも流れていて、古代文明が水の恵みに依存していたように、現代社会も水なしでは成り立たないのだなと思いました。今も昔も水がなければ食料は育たず、人が集まって暮らすこともできず、社会を作ることができないのです。

このように、水はぼくたちの生活を何重にも支えてくれています。でもぼくは今まで、いくらニュースで水がないとかダムの貯水率がゼロだと見聞きしても、「へえー、そうなんだ。大変だな。」としか思っていないませんでした。そんなことを言われてもぼくの家では蛇口をひねれば水がいくらでも出るので、どこか他人事ではなかったのだと思います。

水の大切さを考える時、ぼくたちは古代文明からも学ぶべきことがあると思います。それは水を有限なものとして、感謝しながら利用する姿勢です。古代の人々は、灌がいや貯水システムを工夫することで限られた水を最大限活用していました。そしてエジプトではナイル川の氾濫を神の恵みであるとし、祭りを行って水を讃えていました。水を資源として使うだけではなく、皆で水に感謝していたのです。水がなければ文明も未来もありません。ぼくは古代の人々の水に対する姿勢とこの夏の大失敗を忘れず、今後は水とともに生きる生活を大切にしていきたいと思っています。

【優秀賞】

蛇口の向こうには

宮城県仙台二華中学校

一年 大^{おお}竹^{たけ}祐^{ゆう}愛^あ

それは令和元年八月のことだった。当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなかったと気付かされた出来事があった。

私は母、祖父母とともにベトナムを訪れた。異国の文化に触れながら一日中歩き回った私は、まるで銅像のように体が動かなくなるほど疲れていた。頭もぼんやりしており、母に何度も注意されていた言葉をすっかり忘れていた。「海外の水道水は飲まないように」。気づいた時には、すでに遅かった。私はうがい水道水を使ってしまうていたのだ。それに気づいた母は声を荒げた。

「何をしているの!？」

突然の声に驚いた私は、口の中の水をそのまま飲み込んでしまった。

数時間後、強い腹痛に襲われ、私はベッドから動けなくなった。六歳だった私を、ホテルで一人にさせることもできず、その日、家族は一日中私に付き添ってくれた。家族に迷惑をかけたこと、そして自分の不注意を心から後悔した。このとき、初めて気付いた。「水道の蛇口をひねると、安全で清潔な水が出てくる」ということは、決して当たり前ではないということを。

令和七年六月、弟が校外学習で浄水場を見学した。私はコロナ禍の影響で行くことができなかったが、弟の話を聞くうちに、自分も浄水場についてもっと知りたくなった。そして調べた。

すると、水道水が家庭に届くまでには、取水施設、沈砂池、導水管、着水井、薬品混和池、フロック形成池、沈殿池、ろ過池、消毒施設、排水設備といった、十の設備が協力し合って働いていることが分かった。それら

はすべて、浄水場の職員によって二十四時間体制で監視・管理されており、常に安全な水が供給されるよう支えられている。

私たちが学校に通っているときも、夜眠っているときも、私たちの安全を守るために働いてくれている人たちがいる。水質分析技師、設備管理技師、そして運営スタッフ。それぞれの知識と努力が、水道水に充満している。

さらに、水をきれいにするには、設備だけでなく微生物や薬品の力も欠かせない。活性汚泥の中には一リットルあたり約千億個もの微生物が存在している。細菌は有機物を分解し、原生動物は細菌を捕食して水を浄化し、後生動物はさらにそのバランスを保っている。また、主に四つの薬品が水を綺麗にしている。凝集剤が汚れを集め、消毒剤が病原菌を殺し、pH調整剤が水質を安定させ、粉末活性炭が水の味やにおいを整えてくれている。

蛇口をひねれば、綺麗で安全な水が出てくる。このことが、どれほど多くの人の努力と技術によって支えられているかを知ったとき、私は「当たり前」の裏側にあるありがたみに気付かされた。

今の私は、水を使うたびに感謝の気持ちを持つようになった。これから、日本の水道水を支えてくれている全ての人々への感謝を忘れず、水を大切に使用したいと思う。そして、清潔な水を手に入れることが難しい地域の方々にも、蛇口をひねるだけで綺麗な水が出てくる幸せを感じてもらいたい。そのため、募金や支援活動など、自分にできる方法で力になりたい。

【入選】

水と共に生きる

宮城県仙台二華中学校
一年 金谷章汰

僕たちの暮らしで欠かせないものといえば、「水」です。水は様々な用途で使われます。僕が思い浮かべる用途の例は、飲料用や手洗い、シャワーです。そんな大切な資源である水も時には、洪水や津波など、命を脅かす存在にもなります。例えば、二〇一一年に起きた東日本大震災では、大きな地震の後に津波が発生し、僕が住んでいる地域でも、多くの人が避難生活を強いられたそうです。

水に脅かされてきた国のうちの一つがオランダです。オランダは、ヨーロッパの西にある小さな国で、国土の約四分の一が海面より低い場所にあります。だから、洪水が起これると土地が水で浸水するかもしれないのです。僕はこれを初めて聞いたときは、「なぜそんなところに人々が住んだのか」と不思議に思いました。しかし、夏休みに出かけた大阪関西万博で話を聞いていくうちに、この疑問が明らかになりました。

オランダでは、風車やポンプを使って海や湖沼の水をくみ出すことで、農業や生活ができる土地を増やしてきました。このような土地を「ポルダー」と呼びます。ポルダーは、水はけが良く、しかも肥よくな土じょうを持つ土地であり、酪農や園芸農業に適しています。オランダには多くのポルダーがあり、オランダの国土の四分の一が海面より低いのは、ポルダーを増やしてきたからだと言われているのです。

また、洪水や高潮による被害を最小限にするために堤防や水門、ダムなどの工夫があります。例えば、「マースランドケリング」という可動式の防潮門があります。通常は開放されており、船が通ることができませんが、コンピュータが高潮の危険を察知すると、自動で巨大なゲートを閉じて、

町の浸水を防ぎます。こうした仕組みは、オランダの「デルタ計画」という高潮から町を守るための計画の一部で、世界でも治水プロジェクトとして高く評価されています。

そして、僕が特に感心したのは、オランダの人々が水を「敵」ではなく、「共に生きるもの」としてとらえていることです。水害が起きるとき、ただ水を遠ざけるのではなく、水とともに生きる道を選んでいくのです。例えば、雨がたくさん降っても町がすぐに浸水しないように、水がたまるような場所を作ったり、水辺に家を浮かべて住んだりする工夫があります。このように、水を防ぐだけでなく、「受け流す」という考え方をともに、自然と調和した暮らしを目指しているのです。

近年、地球温暖化による海面上昇により、水の影響を受ける国が増えてきています。日本でも水害は大きな問題ですが、堤防やダムの整備や洪水ハザードマップの作成、気象予報の発達などにより、被害を少なくするための努力が進められています。また、治水だけでなく、雨水をためて再利用する仕組みや水辺の自然環境を守る取り組みも行われています。日本もすでに、水と上手に共生している国の一つといえると思います。

これからも、僕は水について学び続けたいと思います。水とともに暮らしていく社会をよりよくしていくために、身近なところから自分にできることを続けていきたいです。例えば、ゴミの分別をしたり、排水口に水を流さないようにすることや水を使うときには出しっぱなしにしないようにすることなどです。限りある資源である水を大切に扱うことも水との共生につながっていくと思います。これからも水を大切にしながら、自然と調和して暮らせる未来をつくっていききたいです。

【入選】

川が教えてくれたこと

宮城教育大学附属中学校

一年 野^の田^だ柚^{ゆず}羽^は

今年の夏、ロンドンを訪れて一番印象的だったのは、ビッグベンでもなくバッキンガム宮殿でもなく、テムズ川の色だった。灰色がかった茶色の水面は、観光ガイドで見た輝く川とはまるで別物だった。水面にはゴミが浮かび、泡立っているところもあった。

ロンドンでは、人口増加に伴い生活排水が増えているが、下水処理力が足りていない。その上、雨水と下水が合流式下水道に流れるため、二ミリの雨が降るだけで下水があふれる。そのため週に一回のペースで下水をそのままテムズ川に流している。テムズ川の一部では、大腸菌が許容基準値のおよそ十倍検出された。テムズ川での伝統あるボートレースでも、「水しぶきに気をつけろ」と入水禁止措置が下されたほどだ。さらに、油をそのまま排水溝へ流す習慣、飲食店や工場からの排水のため、ビクトリア朝時代から使用している下水管は、ファッド・バークと呼ばれる巨大な油の塊が付着し、問題となっている。最近では、浄水場における高度な浄化処理技術の開発など、浄化事業が進められているが、川の透明度は低く、魚の姿を探すのは難しい。歴史ある大都市の象徴であるはずの川が、人間の活動によってこれほどまでに傷ついてしまったのかと、胸が痛んだ。

一方、日本に戻ると、近所の川の澄んだ流れが、新鮮に感じた。小学校のときに行った下水処理場のことを思い出した。日本の下水処理場では、沈殿を繰り返し微生物を使って反応させ、高度処理等も行つて水をきれいにしている。ロンドンと同じ合流式下水道のところもあるが、雨量が増えた場合は貯留池に一時的に貯留し、雨が止んだ後に処理している。貯留池の容量を超える場合でも、簡易処理をしているため、処理せず川に流れる

ことはない。もちろん日本の全ての川がきれいというわけではないが、テムズ川と比べて日本の川の多くは透明度が高く、生態系が健全に保たれているように思う。

この違いは、単なる国の違いだけではなく「水をどう捉えるか」という文化の違いにも関係しているだろう。日本では昔から、水は神聖なものともみなされ、田畑を潤す恵として感謝されてきた。俳句や和歌に登場する清流の描写をみると、その価値観は生活に根付いてたとわかる。一方、産業革命以降のイギリスでは、水は工業の原動力であり、川は大量の廃棄物を流す場所として使われてしまった。水を「利用する対象」として見た結果、汚染が進んでしまったといえる。

しかし、日本でも高度経済成長期には工場排水による水質汚染が社会問題となった。その反省から、厳しい排水規制と下水道の整備が進み、今のきれいな川が保たれている。つまり、日本の川は多くの犠牲とその後の努力の上に成り立っている。

水は私たちが生きるために最も基本的な資源だ。人間の体の約六割は水でできており、一日でも水がなければ命は危ない。農業や工業にも水は欠かせない。地球上の水のうち、人間が飲める淡水はわずか二・五%しかない。その貴重な水を汚せば、浄化に膨大な時間と費用がかかる。テムズ川の現状は、未来への警告を私たちに突き付けているように思う。

だからこそ、日常生活から水を大切にする行動を起こしていきたい。排水にゴミを流さない、料理の油はふき取って流さない。小さな行動の積み重ねが大きな変化となる。きれいな川を守ることは、生活を守ることに未来を守ることへとつながっていく。

ロンドンでの衝撃と日本での新たな気づきは、私が水について考えるチャンスくれた。私は、このかけがえのない水に感謝しながら、きれいな川を未来へ残していきたいと思う。

【佳作】

「水の未来」

登米市立豊里中学校

一年 阿部眞花

みなさんは水について考えたことはありますか。

私が水について深く考えるようになったきっかけは、総合的な学習の時間で「水」について調べる授業をしてからです。その時間では、水は私たちにとってどのような存在かということや水についてもっと知りたい事を考えて、友達と意見を交換し合うという事をしました。でも、その時の私は、「なんでわざわざこんな身近にある水のことを勉強するんだろう……」と思っていました。

ある日、学校の総合の時間に環境講話をするために、特定非営利活動法人、海の自然史研究所の平井和也さんに来ていただきました。

平井さんは、このまま海の状態が変わらないと、二〇五〇年までにプラスチックゴミの量が魚の量を上回ってしまう。と話していました。他にも、マイクロプラスチックの影響により、私たちの体にも害をもたらす可能性があるということを聞いて、私は驚きと同時にこのまま変わらないと本当に世界の未来が危ないという危機感を持ちました。

また、平井さんに用意していただいた、大きい箱に入った砂にうまっているゴミを取り除くという体験をしました。体験してみると、思ったよりも難しく、実際にビーチクリーンをしている方々の大変さが身に染みて感じました。

この講話を聞いて、私は自分たちが捨てたゴミは、めぐりめぐって私たち人々の体にも害をもたらしてしまい、未来が危なくなっている状況だということを改めて知ることができました。この経験から、私は海についてもっと理解し、自ら行動に移していかなければいけないと思いました。

後日、自分たちが世界の環境のためにできることは何かと考え、ビーチクリーンをすることにしました。私は友達と一緒に白浜海水浴場に向かいました。海水浴場はとてもきれいにされていました。しかし、人の手が届いていないような場所へ行ってみると、平井さんのお話の通り、空のペットボトルやプラスチックのかけらなど、海から流されて来たゴミがいっぱい落ちていました。そのゴミを自分たちで拾い集め、きれいにしました。

この経験から、今まで自分とは関係ないと思っていたプラスチックのゴミ問題は、とても身近なものになりました。

一か月後、私は本州の最北端「大間崎」という場所へ行きました。大間崎からは、北海道の函館を見ることができました。しかし、その帰り道に海辺を通っていると、今まで見たことがないくらい、大きなプラスチックゴミや外国のゴミなどが見渡す限り広がっていました。その時の光景はとても衝撃的でした。「プラスチックのゴミ問題が深刻になっている」ということを改めて実感し、平井さんが世界の人々へ必死に伝えようとしている気持ちがよく理解できました。

実際に、家や学校の周りを歩いていると、アイスやコンビニ類のゴミがたくさん落ちています。特に、公園にポイ捨てをしている人が多いように感じます。私は、公園を利用する人は責任を持ってゴミを持ち帰るべきだと思います。

最後に、今の生活の中にきれいな水があるのは当たり前ではなくて、とてもありがたいことだということが分かりました。そして、自分にできることを見つけ、行動することの大切さを講話を通して知ることができました。これからも、安心して生活ができるように、積極的に自然活動に参加していきたいと思っています。

みなさんも自分たちの未来のために、行動に移してみませんか。

【優秀賞】

「水守の郷」の一員として

七ヶ宿町立七ヶ宿中学校
二年 日野玲隼

春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の銀世界。

豊かな水が、それぞれの季節の美しさを引き立てる七ヶ宿ダムの風景が僕は好きです。

七ヶ宿町は、『宮城県民の水がめ』と言われる『七ヶ宿ダム』のある町です。

この町で生まれ育った僕にとって、水はいつも身近にあり、好きなだけ使うことのできるものでした。そして、それは当たり前のことだとずっと思っていました。

しかし、この夏、僕は、（水は無限ではない）ということを感じ知らされ、初めて水について深く考えることになったのです。

猛暑となった今年の夏。水を使うことは多いのにまとまった雨が降らず、全国的な水不足となりました。ニュースでも連日、ひび割れた田んぼや水位の下がったダムの映像等が流され、節水が呼びかけられました。

（七ヶ宿は大丈夫。）初めは、何の根拠もなく、僕はそう思っていました。でも、いつも水を汲んでいた家の近くの湧き水が枯れそうになり、水位が下がって茶色の土がむき出しになったダム湖を見たとき、僕は初めて、（水がなくなるのではないか。）という恐怖を感じたのです。

これを機に、僕はそれまであまり考えてみることもなかった七ヶ宿の『水』について知ろうと思ひ、夏休み中色々調べてみました。

七ヶ宿ダムは、宮城県の仙台市を含む十七の市や町に、毎日最大一九三万人分の水を供給しています。一番遠いところでは松島町まで水を届けているのです。七ヶ宿ダムの貯水率は普段なら約八〇％～九〇％なのですが、この暑さと雨不足で今は貯水率が六〇％台まで減少しました。僕も

小学校の頃にダム見学をしましたが、あんなにも大きく、深いダムの水がそんなに減ることがあるなんて、想像もできないことで、危機感がありました。

水源は、白石川の源地地としても知られる『鏡清水』で、江戸時代、街道を通ったお姫さまが鏡にして髪を整えたという逸話があるほどきれいな水です。この水を使って育てられた『源流米』や蕎麦は七ヶ宿の名物で、毎年たくさんの人が楽しみにしているのです。

さらに調べていく中で、僕は、きれいで豊かな水を守るためには『森を守る』ことがとても大切だということ、そしてこの七ヶ宿の森を守るために、たくさんの人たちが長年にわたって植樹や間伐などの保全活動をしてくれていることを知りました。僕は七ヶ宿に住みながら今まで森を守る活動に参加したことはなく、意識が低かったと反省しました。

そして、六月に行った松島校外学習で、松島高校観光科の皆さんと、船からカキ殻を放出する体験をしたことを思い出しました。

カキ殻は水中の有機物を分解して水質を改善するなどの効果があるのだそうです。僕は（空も山も海も水によってつながっている）そしてその水をきれいにし、守っていくのは人間なのだということを強く感じたのです。『水と森とつながるまち』という七ヶ宿のパフレットの言葉がやっと理解できました。

僕は今、総合学習で『地域素材の活用』をテーマに、森の間伐材で作った炭を活用して脱臭剤などが作れないか考えています。炭もまた、田んぼなどに入れて、きれいな水を作るのに使われているのです。なんと松島のカキ殻も使われていることがわかり、僕は、よりよい環境と水のつながりを実感しました。

僕はこの夏、水についてたくさん学び、考えました。そして、水に対する考えが大きく変わりました。すぐに何か特別なことはできないかもしれませんが、でも、毎日使っている水が多くの人々の手によって大切に守られてきた特別な水だと知った今、その水を大事に使うだけでなく、大切に守っていく活動にも積極的に参加していこうと思っています。

美しい『水守の郷』の一員として。

【佳 作】

きれいな水を守るために

宮城県仙台二華中学校

二年 中 なか 川 がわ 修 しゅう 一 いち

きれいな水があるということがどれほど素晴らしいことか考えたことはあるだろうか。現在の日本の水道普及率は九十八パーセントとなっており、普通に生活を送る分には不自由を感じることはないだろう。そのため、多くの人はきれいな水がどれほど貴重なものか気付いていないだろう。

僕は今年の五月に、総合学習の一環で北上川の河口の干潟へフィールドワークに行った。そこで行った活動の中に、五十センチメートル四方の土を十センチメートルほど掘り、中にいる生き物を記録するというものがあった。その時に観察することができた生き物の数は僕の想像を遥かに超えていて、とても驚いた。またこのフィールドワークでは、他にもヨシと呼ばれる植物の観察、移植など多数の活動を行った。これらの活動はとても楽しく、印象に残るものだった。もしも川の水が汚かったら、これほど多くの生き物が生息していることはなく、これらの活動もできていなかっただろう。きれいな水があるということは、生き物や生態系だけでなく、自分たち人間にとっても有益なことなのである。

人間の手にかければ簡単に川を汚すことができてしまう。高度経済成長期の日本の川の写真を見たことはあるだろうか。排水が川に大量に流されたことにより、水は濁り、泡が浮いている。川の水質汚濁が問題となり、中には産業排水に含まれる化学物質による公害が問題になったところもある。水俣病やイタイイタイ病がこれらの例として挙げられる。これらの公害の影響により、産業排水には排出規制がかけられるなどの対策が施されている。ところが、生活排水には大きな対策がされていない。しかし、近年の水質悪化の原因の五から七割は生活排水だといわれている。そのた

め、これからは水質汚濁を防ぐための生活排水の対策が大切になると考えられる。

生活排水の中でも台所から出る排水には、食べ物のカスや油などが含まれていて、特に汚いとされている。台所から出る排水に含まれる汚れの中でも油は特に厄介な汚れで、牛乳や味噌汁など一ミリリットルを魚が住める水質にするには数リットルの水しか使わないのに対し、天ぷら油（サラダ油など）一ミリリットルを魚が住める水質にするには約三百リットルもの水が必要になるのだ。したがって、僕はなるべく油を下水に流さないようにすることが、最も効率的な水質汚濁対策だと考えた。

例えばフライパンなどの調理器具に付着した油分をキッチンペーパーなどでふき取ってから洗うのはどうだろうか。一回ではあまり変化はないかもしれない。しかし、このような対策をとり、週に一ミリリットル下水に流す油の量を減らすという生活を一年間続けることができれば、合計五十ミリリットル流す油の量を減らすことができる。そして、日本に住む約一億二千万人もの人々全員が同じような生活を送ることができれば、合計で約六十二億ミリリットル、つまり六百二十万リットルも流す油の量を減らすことができるのだ。

「きれいな水」があることは、人間を含む多くの生物にたくさんのメリットがある。しかし、たった一人の些細な行動で、あつという間に水は汚れ、たくさんの生き物に多くの被害が出てしまう。「きれいな水」を守るために、一人一人がこの問題の当事者だという自覚を持ち、小さな努力を積み重ねていく必要があると思う。

【佳作】

水のカースマ性

宮城県仙台二華中学校

二年 太田彩愛

水は私たちにとってどんな存在か。炊事、洗濯、掃除、入浴、お手洗など人間にとって必要不可欠な存在。動植物が生命を維持するのに欠かせない存在。今まで私はそれくらいしか思いつかなかったし、水があることが当たり前すぎて水について考えることもなかった。しかし、夏休みに行ったシンガポールでの旅行をきっかけに、水についての考えが深まり、水の新しい価値も知った。

まず私は、シンガポールの空港でレインボルトクスという巨大な屋内の滝を見た。屋内の人工滝では高さが世界一の滝と言われていて、地面に轟くような音と力強い水しぶきを上げて流れる巨大滝は圧倒的な迫力があつた。夜にはこの滝で光と音のショーが行われて、プロジェクションマッピングや音響、滝の周りに生い茂っている木々などが幻想的な空間を造っていた。日本にあるような山の中の自然的な滝というよりは、様々な技術が駆使された芸術的な滝という感じだった。その後も度々「芸術としての水」を目にする機会があつた。もちろんマライオンもその一つだし、いたるところに噴水があつたり、ショッピングモールの建物内に運河や空港にあつたような滝があつたりした。中でも、スペクトラという夜の光と水のショーが印象的だった。壮大なオーケストラのサウンドをバックに、豪快な噴水や色とりどりのレーザー、プロジェクションマッピングなど様々な最新技術を駆使して表現されていた。とても神秘的で、まるで魔法かのような演出にうっとりしてしまった。正直、ショーなんて見て終わりだと思っていた私が、目を離せなくなるほど圧巻で大迫力だった。

このように、シンガポールでは人々を楽しませるために、たくさんのお

金や労力をかけて工夫が凝らされた「芸術としての水」があらゆるところにあつた。水は生活に使うためだけではなく、観る人を惹きつけ、癒し、人々を魅了する力も持っていることに気がついた。水は動植物の体だけでなく、心までも潤してくれるという価値があると思った。

こうして私は水の新しい価値にも気づいたが、現在世界中で水不足が深刻化している。私が身近に水不足の危機を感じることはあまりなかったが、この機会が世界の水問題の現状を調べるきっかけとなった。現状を知れば知るほど、水は有限でありとても貴重な資源だと改めて気づいた。このままでは農作物への影響、生活環境の悪化、水資源を巡る紛争など、世界中で問題が多発してしまう。

水には、私が考える二つの価値以上にもっと多くの価値がある。しかし、せっかく様々な価値があつても、水不足の状態では必然的に「生活するための水」が最優先となり、どうしても生活に使う以外の水の価値が隠れてしまう。そのため、もつと技術を発展させ、水が持つ価値をすべて発揮できるほどの余裕が欲しい。水不足が解消し、世界中の人に生活のための水が行き渡った上で、エンターテインメントとしてやエネルギーとしてなど、様々なことに水が使えるようになったらとても素敵だと思った。そのため、どこかの誰かが、ではなく私たち一人一人が問題意識を持って水を大切にすべきだと強く感じた。

ボウルなどに水をためずに流水で洗顔をしていたり、食器洗いの時に水を止めていなかったり、お皿に汚れがついた状態で下膳したり：「水なら蛇口からすぐ出てくるから」「ちよつとだけなら大丈夫」という油断や危機感の低さから、たくさんの方が日々無駄になっている。水を大事にできている、と自信を持って言えない自覚があるからこそ、今から自分にできることを実践していきたいと思う。水があることは当たり前ではなく、水は「限りあるもの」、「とても大切なもの」であることを忘れずに過ごしていきたい。

【佳作】

透明な存在

角田市立北角田中学校

二年 目黒莉桜

水は、あまりにも身近にありすぎて、普段その存在を深く考えることは少ないです。しかし、ふとした瞬間に「水ってすごいな」と思うことがあります。私にとって水は、ただの飲み物や生活に必要なものというだけでなく、心を落ち着かせたり、記憶を呼び起こしたりする、不思議で大切な存在です。私は小さい頃、プールを習っていました。夏の暑い日に水に飛び込むと、全身が冷たさに包まれて、まるで別の世界に入ったような気がしました。水中では音がこもり、時間の流れがゆっくりになるような感覚がありました。その不思議な静けさと浮遊感が大好きで、長い時間泳いだり、水の中に潜ったりして過ごした記憶が今でも鮮明に残っています。水は形を持ちません。しかし、器に合わせて自由自在に姿を変えることができます。その柔軟さとどんな状況でも流れ続ける力強さには、学ぶべきことがたくさんあると感じます。人間関係や生活の中で思い通りにいかないことがあっても、水のように柔軟かく受け止め、流れを止めずに前に進んでいけたら、もっと穏やかに生きていけないかと思っています。また、水は命の源でもあります。人間の体の約六十パーセントは水でできていると言われていすし、水がなければ植物も動物も生きていくことができません。私たちは、毎日当たり前のように水道の蛇口をひねって水を使っていますが、それがどれほど恵まれたことなのか、つい忘れてしまいます。世界には、きれいな水を手に入れることができず、命の危険にさらされている人々がたくさんいます。そうした現実を知ったとき、私は「水を大切にしよう」という思いが強くなりました。学校で学んだ水の循環のしくみも、私の水への考え方を変えるきっかけになりました。雲となり、

雨となり、川を流れ、海へと帰る、そんな壮大なサイクルを繰り返しながら、水はこの地球をずっと巡っています。その中には、何千年前に恐竜が飲んだかもしれない水も含まれているかもしれないと知って、なんだか夢のある話だと感じました。水は姿を変えても、ずっと地球のどこかに存在し続けているということが、とても神秘的で面白いと思います。最近では、気候変動の影響で大雨や洪水が増えています。水は命を支える一方で、ときに大きな災害を引き起こします。自然の力の前では、人間はともも小さな存在だと実感します。しかしだからこそ、水と共に生きるために、自然を大切にしながら上手に付き合っていくことが大事なのだと思います。自分たちの生活と自然のバランスを考えながら、未来のために行動していくことが求められていると感じます。水は、目に見えない心の変化にも寄り添ってくれる存在です。泣きたいとき、流れる涙も水です。つらいことがあっても、涙を流すことで少しだけ気持ちが軽くなるのは、水が心の中の痛みを外へ連れ出してくれているからかもしれません。うれしいときや感動したときにも涙が出るように、水は心の動きと深くつながっているのだと思います。私はこれからも、水のようにしなやかでまっすぐな心を持って生きていきたいです。そして、日々の暮らしの中で「当たり前」のように存在している水に、もっと感謝の気持ちを持って接していこうと思います。

【優秀賞】

命をつなぐ水

仙台市立南小泉中学校

三年 加藤 藤 ひかり

日本は蛇口を捻れば当たり前に出る水が出てきて、当然のように水が手に入る。しかし、それは当たり前のことではない。

国土交通省の資料によると、水道水をそのまま飲むことができる国は、日本を含めて十二ヶ国しかないことが分かった。世界は百九十六ヶ国であるため、水道水を飲むことができる国がどれほど少ないかが目に見えて分かる。もう一つ、ユニセフによると、現在、世界で六億六千三百万人の人が安全な水を手に入れることができないという。これらの人は身近に安心して飲める水がなく、池や川、湖、または整備されていない井戸などから水を汲んでいる。

自分の毎日の生活を振り返ると、水は朝起きてから夜寝るまで、生活を送る上で欠かせない存在である。私たちは水を飲みたい時に飲め、使いたい時に使え、どんな時でも自由に水を使うことができる。しかし、世界には何時間もの水が汲みに行かないと水が手に入らない人もいる。そのためにも学校にも満足に通えない子どもたちもいて、それが日常になっている。私も同じ年代の子どもや私も年下の子どもたちもいるのだ。

この夏、紛争で命を落とした医師、中村哲さんの映画を観た。干ばつのアフガニスタンで井戸を掘り、用水路を作り、六十五万人の人々を飢えから救った中村哲さん。どうして医師の中村さんが井戸を掘り、用水路を作ることになったのだろうか。

中村さんは医師としてアフガニスタンの無医村へと向かい、診療所建設に乗り出した。しかし、アフガニスタンを襲った大干ばつの影響で、農作物が育たず、人々は生きていけない状況となった。中村さんはその状況を

見て、生きるために必要なものは何かを考えた。それは「水」だった。中村さんは自ら井戸を掘り始めたが、井戸を掘って水が出てもすぐに干上がってしまう。そこで考えたのが用水路作りだった。中村さんは用水路作りをゼロから勉強し、前代未聞の大工事を開始した。それは苦難の連続だったが、七年もの歳月をかけ、念願の用水路を作ったのだ。用水路が運んだ水で、乾ききった砂漠は緑豊かな広大な森へと変貌し、食料を自給自足できるまでに回復した。中村さんはアフガニスタンの六十五万人の命をつないだ。そこには現地の人、子どもたちが手を取って心から喜び合っている姿があった。巨大な砂漠が緑地化した映像は忘れられない。水の偉大さに圧倒され、水の力はこんなにも素晴らしいのかと気づかされた。

中村さんの言葉で印象に残っている言葉がある。「百の診療所より一本の用水路を」この言葉に中村さんの人生をかけて挑む意志を感じた。目の前の問題だけではないのだ、今現在、そしてこの先もずっと現地の人が自分たちの力で生きていくために必要なことを一緒に進めていこう、そのためには水が何より必要なのだ、水を手に入れようという意志だ。

これは遠い国アフガニスタンで起こっていることでは済まされない。実際、鳴子ダムが渇水で危機的状態というニュースを目にした。三十一年ぶりにダムの貯水率が0%となり、農業用水など深刻な渇水が続いた。地球温暖化などにより、水に恵まれていた日本も水不足が深刻化している。

私たちにできることは何だろうか。

今身近で起きていること、そして世界で起きていることに関心を持ち、自分に何ができるかを考えること、いかに自分事として思いを寄せることができるか。節水が大切といっても、思うだけではいけない。自分の生活を振り返り、行動することが必要である。

よし、今日からやってみよう。時々忘れていた歯磨き中の水の出しっぱなしをしないようにしよう。決めた。水があることは当たり前ではないのだから。

【入選】

水について考える

岩沼市立岩沼中学校

三年 合 田 祥有未
こう だ さゆみ

「令和の米騒動」とよばれた去年の米不足、当たりまえの存在、米が高級品になっていた。ため息をつく母の姿とグチはだいたい聞き飽きたように思う。そんな中、母方のおじさんから田植えの手伝いをしてくれないか、と連絡が来たので母と私で手伝いに行く事にした。私に何か手伝えることがあるだろうかと不安だったが、初回は準備だ。苗床を作るための場所の掃除や器具を洗い、たくさんの農機具がある場所を眺めるのが精いっぱいだった。

田植えと聞くと泥の田んぼに入って苗を手で植えていくイメージがあるが、それは準備が整ってからで、まずは苗が必要だ。苗を育てるためには土と種と水が必要で、更に肥料を絶妙な配合で混ぜ込んでそれを薄い箱の中に入れていくのだ。私はその土を大きなスコップで機械のそばまで運ぶ担当をした。

いつもは高齢のおじさんとおばさん、親戚同士で協力し合うのだが、この春におばさんが亡くなり全員悲しい気持ちの中、おばさんがいかに働きたくてたくさんの仕事をしていたのか全員身に染みてわかったのだ。

少しでもみんなが明るい気持ちになるように私は一生懸命手伝い、稲の芽がでてくるのを楽しみに待つことにした。

そこから二週間ほど経ち、いよいよ田植えをするというのでまた実家に向かった。苗がどうなっているか気になって、私はビニールハウスへ急いで走った。中にはホースで水をまいているおじさんの姿があり私はきれいな緑のじゅうたんを見ながら

「苗の具合はどう?」

と声をかけた。

「さゆが手伝ってくれたからバッチリだ」

と嬉しい声が返ってきた。その日はハウスから軽トラに苗を一枚ずつ運び入れ、田んぼに移動して田植え機にセットをする、空になった箱を用水路で洗い片づけていく、これを果てしなく繰り返すのだ。

難しいことではなかったが大切な仕事で、どう考えても一人では出来ない。農業は過酷だし大変な仕事だとよく分かった。一日がかりで必死に手伝った結果、茶色一色だった田んぼに緑の苗が整列していた。私はなんだか誇らしい気持ちで一杯になった。

田植えから稲穂が育つまでの間はたっぷりの水が必要だ。この夏は猛暑の影響で鳴子ダム貯水率ゼロという報道がされ、真っ先に田んぼが心配になった。ゼロということは貯めておける水がないので、調節が難しいということだ。報道を見てから気持ちばかりの節水を私なりにやってみたが、我ながらこれでは遅いとわかっていた。高い、無いと不満ばかりで誰かがなんとかしてくれと思うのはあまりにも無責任だ。必死に知恵を絞る行動している人がたくさんいる。私達がすぐにできることを探そう。節水だけが解決にならないだろう。水が必要とするのは農業だけではないしどんなことにも水は必要で、そして私たちもまた安全な水を飲み使わないと生きていけない、全てつながっているのだ。下流である私たちが水への気持ちを少しでも意識すれば上流で貯められる量が増える、限りある水が巡り巡って自分の元に戻ってくるのではないだろうか。

ダムの水は危機的だったが、田んぼへの水不足はなんとか乗り切ったそう。たくさんの方が努力し、どんなに大変だったろうと頭が下がる思いだ。実家の田んぼは稲穂がふっくらと黄色く実ってきた。大切な水を使って作った米ができあがるのはもう少しだ。私が手伝ったのはほんの少しだが、それでも水という資源を守り調節してくれているたくさんの人への感謝の気持ちを再確認できた。これからは一滴の水と、この気持ちを大切にしている周りの人にも伝えていきたいと思う。

【佳作】

水の危機

石巻市立河南西中学校

三年 菅 ^{すが} 原 ^{わら} 侗 ^{れい}

皆さんは、当たり前前に使用している水について考えたことがありますか？水は私たちの生活において欠かせないものです。水がなければ生活用水がなくなってしまう、生きることができなくなってしまうです。ですが水は自分たちの知らないところでどんどん減ってしまっているのです。まずはその事実を再確認してみてもいいと思います。

まず水が減ってきている理由は、地球温暖化による気候変動や人口増加が主な要因となっています。最近では馴染みが深い地球温暖化によって異常気象や干ばつがひき起こされ、水源の破壊や汚染につながってしまっています。これが、水が減ってきている一つの要因です。

二つ目の要因は人口の増加です。世界的な人口の増加によって、生活用水や農業用水の使用量が増えてしまっていることで有限な水資源が減少しています。

では、水がなくなることによって、私たちにどのような問題が生じるのでしょうか。一つは生活用水の減少です。生活に使われる水が減り、安定供給が難しくなります。それによって水道が止まったり飲み水がなくなってしまうかもしれません。その上、農業用水も不足するため食料までもがなくなってしまうです。また連鎖的に問題が発生します。水が不足すると綺麗ではない不安定な水も使わざるを得ないこともあるかもしれません。そうすると体調不良や寄生虫などで体に害が生じてしまいます。

では自分たちがこのような問題に陥らないためにはどのようにすればいいのでしょうか。

まず簡単なものとして節水を心がけることです。手を洗う時やお風呂に

入る時など、使っていない時はできるだけ水を使わないように気をつけましょう。ですが水問題を知って対策をするだけではたりません。水問題に興味を持って対策している人はごく僅かです。だからこそ、これを知った人は水が将来的になくなってしまいうこと、自分たちでもできることがあることを周りに知らせる活動をしてほしいと思います。自分がやっただけの意味がないなどと思わず、一人では足りなくても、皆、一人一人が意識すればみんなの結束につながります。そのようにこれから訪れる問題を後回しにせず、自分たちが解決するようなつもりで臨んでいくことが未来へ繋ぐ、紡ぐことになると思いました。

私はこのような作文を書く機会が少なく、このような環境問題について考えたのが初めてでした。自分や周りの人もおそらくこのような問題を放置してはいけないことを心の中では薄々わかっていると思います。今までの自分のように、自分には関係のないこととして軽く捉えてしまっている人が大勢いて行動はできず、このような問題が今まで放置されてきてしまったのだと思います。

課題として取り組んだはずの水問題を本当に自分にも関係のあるすぐそこまで迫ってきているものなのだと、今回調べていてそんな気持ちになりました。近年ではさまざまな問題がありますが、人が生きる上で最も大切な人、水や環境の問題に少しでも興味を持った人は小さいことから実践して問題解決に向けて歩き出してほしいと思います。この作文もその小さな一歩だから。

【佳作】

しみわたる水

岩沼市立岩沼中学校

三年 加藤 悠

あの日の水の味を、私は忘れない。

夏の午後、部活の練習が終わったあとだった。グラウンドの照り返しで、息をするのも苦しいほど暑かった。Tシャツは汗でびしょぬれ。頭がぼうつとして、足がふらついた。私は水筒のふたを急いで開けて、中の水を一気に流しこんだ。

その瞬間、身体の奥まで冷たさがしみわたるのを感じた。のどを通って、胸のあたりまで、水が通っていくのがわかった。ただの水なのに、まるで生き返るような気がした。思わず、

「うまい…」

と声が出た。

それまでは、部活後の水なんて「あたりまえ」だった。水筒を持っていたのも、親に言われるからで、自分では特別に感じていなかった。でもあの日だけは違った。水が「おいしい」ではなく、「ありがたい」と思った。帰宅後、祖母に「今日の練習きつかった」と話すと、祖母が水道の前で言った。

「そんなときの一杯は、体にもしみるよね。でもね、あんたが飲んでるこの水も、ただじゃないんだよ」

私は、「ただの水道水なの？」と聞き返した。祖母は続けた。

「遠くのダムから、ろ過して、消毒して、パイプを通してここまで来るのよ。水道が止まったら、一気に生活できなくなるんだから」

たしかに、私は水道が止まった経験がない。蛇口をひねれば水が出る。それが普通だった。けれど、「あの日の一杯」がきっかけで、私はその

「普通」がどれほどありがたいことを知った気がした。

学校で理科の授業中に習った「水の循環」を思い出した。海、空、山、川、地下。そして人の手を通して家へ。水は地球をめぐっている。その流れの中に、自分ののどをうるおした一滴があると思うと、自然と人とのつながりが感じられて、不思議な気持ちになった。

ニュースでは、世界のどこかで水不足や干ばつの話が出る。歩いて何キロも水をくみに行く子どもたち。にぎった水しか飲めない地域。そういう場所では、「あの日の一杯」どころか、「水そのもの」が手に入らないのだ。私は、たった一度の水筒の水から、そんな世界のことまで考えるようになった。

それ以来、私は水を残さなくなった。コップに注ぎすぎた水も、残さず飲むようになった。歯みがきのときに水を止めるようにもなった。誰にも言われなかったけど、自然とそうしたくなった。水が命だと、身体でわかったからだ。

今でも、暑い日の水はうまい。けれど、そのおいしさの奥に、私はいろんなものを感じる。水をつくってくれる自然の働き。水を届けてくれる人の手間。私たちが水を守らなければならない理由。

「水を大切にしよう」という言葉は、よく聞く。でも私にとっては、それはポスターに書いてあるスローガンではない。あの日飲んだ水の冷たさが、何よりの答えだった。

《第2回「宮城県中学生水の作文コンクール」募集概要》

1 作文のメインテーマ

「水について考える」（題名は自由）

2 応募資格

令和7年度に宮城県内に在学する中学生

3 原 稿

- ・日本語により表記された個人作品
- ・400字詰原稿用紙3枚以上4枚以内
- ・本文の前（原稿用紙枠内）に、
①題名、②学校名（ふりがな）、③学年、④氏名（ふりがな）を記載

4 募集締切日

令和7年9月30日（火）必着

5 応募方法

原稿及び「応募様式」（個人用又は団体用）を募集締切日までにEメール又は郵送してください。

6 送付・問合せ先

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号
宮城県環境生活部 環境対策課 環境影響評価班
Eメール：kantaie@pref.miyagi.lg.jp
電話：022-211-2667（直通）

7 審 査

応募作品を学年ごとに分け、【1年生部門】【2年生部門】【3年生部門】のそれぞれで内容が優秀と認められる作品を選考し表彰します。

なお、選考に当たっては、次の観点から審査します。

- ・抽象的あるいは観念的なものでなく、日常の生活や学習、地域における水とのかかわり等を通じて得たことが、具体的に盛り込まれていること。
- ・「テーマ」が的確に設定されており、水の貴重さや水資源開発の重要性、水環境の大切さ等が、中学生らしい視点で記述されていること。
- ・将来の夢や希望、提案等が盛り込まれていること。

8 賞及び賞品

- ・優秀賞：各部門1編程度（賞状、副賞（図書カード5千円分））
- ・入 選：各部門1編程度（賞状、副賞（図書カード3千円分））
- ・佳 作：各部門2編程度（賞状、副賞（図書カード2千円分））

9 全日本中学生水の作文コンクールについて

次年度に第48回「全日本中学生水の作文コンクール」が開催された場合、本コンクールの【1年生部門】【2年生部門】において優秀賞又は入選を受賞した作品を中央審査会に推薦いたします。

(参考)：第47回「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会の賞及び副賞

- ・最秀賞（内閣総理大臣賞）：1編（賞状、副賞）
- ・優秀賞：8編程度（賞状、副賞）
- ・入選：30編程度（賞状、副賞）
- ・佳作：中央審査会へ作文が送付された者のうち、最優秀賞、優秀賞、入選の受賞者を除く者全員（記念品）

※最優秀賞及び優秀賞受賞者のうち、希望者は一日ダム管理事務所長体験が可能

10 入賞発表

- (1) 宮城県中学生水の作文コンクール
在校する中学校を通じて御連絡します。(令和7年12月頃)

- (2) 中央審査会（全国大会）
在校する中学校を通じて御連絡します。(令和8年7月頃)

※入賞作文については、作文のほか、記載された学校名、学年、氏名を宮城県及び国土交通省のホームページや作品集に掲載するほか、宮城県庁内での展示や報道機関を含めた関係者へも提供することとなりますので、予め御承諾の上、御応募ください。

11 著作権等

- ・応募作品は自作の未発表のものに限ります。なお、生成AIによる生成物は認められません。
- ・受賞後に、不正（他人の作文の盗用など）が発覚した場合は、賞を取り消すことがあります。
- ・入賞作品の使用権は、主催者に帰属します。
- ・応募作品の返却は行いません。

12 個人情報の取扱い

本コンクールの応募作品に記載の個人情報は、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。応募者の同意なく、利用目的を超えて転用することはありません。

13 その他

下記ホームページに募集案内を掲載していますので、御参照願います。

○宮城県

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-t/r7mizusakubun.html>

また下記の国土交通省 YouTube チャンネルより水循環について学ぶことができるので御活用ください。

○水の循環（YouTube チャンネルに移動します）

https://www.youtube.com/watch?v=CXax03MA1BI&list=PL2RgY_hjimJQ1xNEM4WPPaci7BXEm4HLi&index=1

↓ 県 HP



↓ 国土交通省
YouTube チャンネル



「宮城県中学生水の作文コンクール」におけるこれまでの入賞者

年度	部門	賞	中学校名	氏 名	作 品 名
第1回 (R6)	1年生	優秀賞	宮城県仙台二華中学校	齋藤すみれ	「再生可能な暮らし」と「水」
			石巻市立蛇田中学校	坂本 悠維	めぐる水～故郷の川を守るために～
		佳 作	石巻市立河南東中学校	三浦 葉奈	水を次の命につなぐ
			宮城県仙台二華中学校	中川 修一	水と親しむために
	2年生	優秀賞	宮城県仙台二華中学校	針生 楓永	「復興を遂げた生き物の楽園」
		入 選	気仙沼市立唐桑中学校	千葉梨璃衣	世界の大切な水を未来へ
			塩竈市立玉川中学校	坂内 聡介	大好きな川と海のために
		佳 作	気仙沼市立気仙沼中学校	横山 葵	命の水
	3年生	優秀賞	仙台市立向陽台中学校	高畑 花音	一人一人の行動で変わる未来
		入 選	仙台市立上杉山中学校	鶴谷 莉子	セーヌ川から水質問題を考える
		佳 作	大河原町立金ヶ瀬中学校	中村 美音	「水は命」

「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者

年度	賞	中学校名	学年	氏 名	作 品 名
第1回 (S54)	国土庁水資源 局長賞	仙台市立五橋中学校	3	阿部 克也	大切な水を考える
第2回 (S55)	入 選	石巻市立住吉中学校	3	池田真希子	水は生命の泉
第5回 (S58)	入 選	仙台市立八木山中学校	3	渡辺 保之	循環の運命をにぎるもの
第6回 (S59)	国土庁水資源 局長賞	仙台市立八木山中学校	3	中村 起也	すばらしい贈り物
第10回 (S63)	入 選	七が宿町立関中学校	2	村上 真希	一滴の水の中に
第11回 (H元年)	入 選	仙台市立八軒中学校	2	杉渕 幹樹	潤いをもたらすもの
第12回 (H2)	入 選	河南町立河南西中学校	3	遠藤 久美	水と私たち
第13回 (H3)	入 選	仙台市立第一中学校	3	石川あかね	山上清水を守ろう
第15回 (H5)	国土交通大臣賞	白石市立小原中学校	1	斉藤 学	水のありがたさ
第16回 (H6)	国土庁20周年 記念特別賞	仙台市立第一中学校	3	佐藤 愛	大地からのプレゼント
第17回 (H7)	入 選	仙台市立第一中学校	1	渋谷 智子	水はみんなの友達
	入 選	宮崎町立宮崎中学校	3	庄子 まり	水に命をかける人
第18回 (H8)	入 選	仙台市立第一中学校	2	渋谷 智子	四谷用水にまなぶ
第19回 (H9)	入 選	仙台市立第一中学校	3	渋谷 智子	水と共に生きる
第20回 (H10)	入 選	本吉町立津谷中学校	2	三浦 大樹	貴重な資源の水
第21回 (H11)	入 選	気仙沼市立松岩中学校	3	佐々木恵美	私たちが守る美しい水
第22回 (H12)	入 選	仙台市立七郷中学校	3	木村可奈子	水とともに生きる
第25回 (H15)	入 選	石巻市立稲井中学校	3	鈴木 舞	水が大好きな祖母
第26回 (H16)	入 選	鳴子町立鬼首中学校	3	遠藤 愛子	水との絆
第30回 (H20)	入 選	石巻市立石巻中学校	3	杉山 智香	水と共に生きる
第33回 (H23)	国土交通大臣賞	石巻市立石巻中学校	3	西牧 奏	水のある風景がなくなって
第34回 (H24)	入 選	石巻市立河南西中学校	3	阿部 美樹	初めて気付いた“水とは何か”
第36回 (H26)	入 選	石巻市立稲井中学校	2	勝然みなみ	少しの意識で変わる未来
第37回 (H27)	入 選	登米市立中田中学校	3	渡邊ちなみ	「意識」を変えろ
第38回 (H28)	入 選	石巻市立河南西中学校	3	土田 琴未	「水」への感謝
第39回 (H29)	入 選	女川町立女川中学校	3	阿部 陽菜	感動を後世へと伝える
	入 選	大崎市立古川西中学校	3	福原 史乃	未来への課題
第40回 (H30)	内閣総理大臣賞	宮城県仙台二華中学校	3	井崎 英里	時をこえて～未来へ～
第42回 (R2)	入 選	仙台市立郡山中学校	3	大柿 楽々	水を守る～野蒜の地から学んだこと～
	入 選	宮城県仙台二華中学校	3	西原 結花	水と共に生きる
第44回 (R4)	入 選	仙台市立郡山中学校	2	増川 智穂	緑が育む美味しい水
第45回 (R5)	農林水産大臣賞	仙台市立郡山中学校	3	辻井 珠希	大好きな景色と水
第47回 (R7)	入 選	石巻市立蛇田中学校	2	坂本 悠維	めぐる水～故郷の川を守るために～

令和 8 年 2 月発行

宮城県 環境生活部 環境対策課

〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目 8 - 1
T E L 022 (211) 2667



この冊子は350部作成し、1部あたりの印刷経費は341円です。